



第3号
(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL (052) 411-5301
FAX (052) 411-5341

平成二十三年は

親鸞聖人七百五拾回御遠忌である

御遠忌がくるぞ

御遠忌がくるぞ

御遠忌だぞ

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

ちつとも聞こえてこない 弥陀の名号

よし さらばと 大音声

ああ 聞こえてきたぞ 聞こえたぞ

あつちからも こつちからも

称えれば聞こえる 不思議な弥陀の名号

この日は死んだ 母ちゃんの声も聞こえた



聖人のおことば

〔高田法宝留影慶信上書から〕

「世親菩薩御ちからをつくしてあらわし給へるなり」

聖人が人格の俥(しの)ばれる御ことばである。これは慶信が「南無阿弥陀仏と、となえてのうへに無碍光仏と申さむはあしき事なり……。これは、いかなるものか」との質問に対して聖人の返書の一部である。

阿弥陀仏の御かたちをしらせ給はねば、その御かたちをたしかに、たしかにしらせまいらせんとして世親菩薩が御ちからを尽くして無碍光仏と説明してみえるのだ。南無阿弥陀仏というも無碍光仏というも智慧であり、光明でもあり、私達を救ってくださる御本尊(御本体)をあらわしている、ことばなのです。

東国に培われた聖人による念仏集団の大半は、無学な農民であったと思う。田舎の人々に理解していただくことの難しさを常日ごろ感じてみえたと思う。

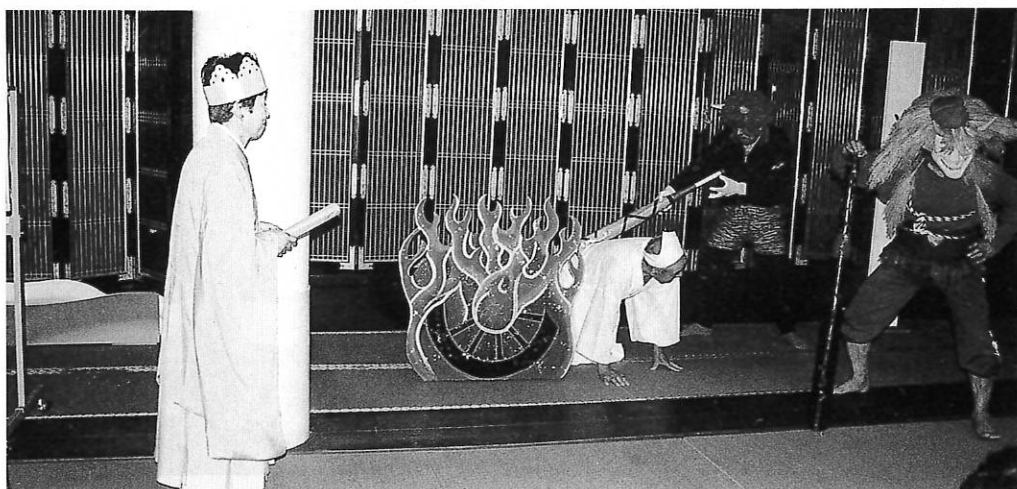
法然上人の下での、都での「信行両座」とか「信心諍論」といった御絵伝の場面は最高の教育を受けたエリートたちの宗教哲学論争であったと思う。

そんなところに仏教はあるのではない。汗と土にまみ

れ、その日の生活すら難しい農民にこそ仏教はあるのだという聖人の精神でもある。

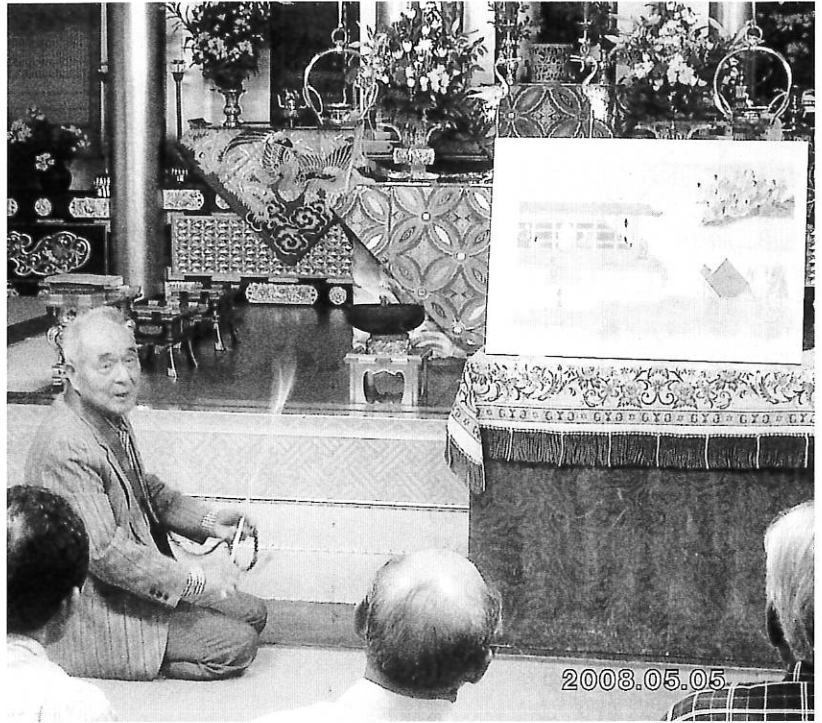
京の聖人と東国の弟子たちとの往復消息は、まさにこれは日本最初の通信教育ともいえる。

特に世親菩薩が力んで無碍光仏と比べてみえるのだよ。理解してくださいねと現代に問いかけてもみえるのである。



古木

その古木はブロック塀を跨(また)ぐように、おまけに六〇度ほど傾いている。表からみると双幹か二株か？は不明だが立派である。樹木の年齢ほど大きっぱなもの



はない。自分勝手に三百年以上は経過していると推察をほしのままにしている。

自坊に年齢の確かな一本の木がある。先代が小学一年の時植えたと称する銀杏(ぎんなん)である。明治二十三年のことであるから樹齢百三十年となる。稲葉地空襲で上半身を失い、それ以来成長がとまっているが胴回りは一メートルはある。どこの家庭にも当てはまることだが、わが家の記録は残したいものだ。

明治二十三年といえは旧憲法の発布の年でもある。昭和二十年敗戦、そして民主憲法の制定。その民主憲法も今や改定とか見直しか問題になっている。人間のご都合主義は憲法すら六十年の寿命しかないのかと…。

この古木は威厳がある。榎(まき)の古木であるが故になおさらである。松・榎は庭木の王者と称したものだ。十枝ほどの枝先は美しく刈り込んであるが、私の好みは自由ののびしてあった方がいいと思う。

村の郷中の道は昔のままにくねくねしている。そうした個所が旧稲葉地にも三・四カ所ある。八十年前と同じそうした路(みち)を歩くことは楽しいものだ。その榎の古木はそうした場所にある。

犬歩 (一)

六十歳前後のご婦人二人の会話。それとなく耳に入る。
 「孫なんてよ かわいがるもんでないわ おもちゃを買
 ってもらう時だけ ばあちゃん いこ いこ と言って
 手をつないでくれるがよ 買ってやると もう しらん
 顔でさ さっさと先に走って行ってしまつてよ」

すると相手が

「そんなもんだわ ええかげんのもんだわ」

人のよさそうな二人の顔をちらつと垣間見る。

おれおれ詐欺に御用心

犬歩 (二)

自転車をとび降り少女は素早く西側のフェンスにうず
 くまつた。

何事ならんと一見するに、もう二匹の犬を愛撫(あいぶ)
 している。犬は全身をくねらせ、おどりながらくうく
 とつぶやいている。少女の表情はよみとれないが、そこ
 からは交流する生命の輝きがある。

葉桜になった稲西小の南側でのことだ。

行事案内

◎廣讚寺による

- 七月 二十日 納涼大会
- 七月 中旬 十時 茶・おとき 研究会
- 毎月二十八日 十時 二十八日講・女人講
- 毎月第二土曜 同朋委員会・例会
- 毎月学習会 日時不定 その都度案内

◎組による

- 七月 二日 暁天講座 西光寺
- 七月 十二日 ご命日の集い 廣讚寺
- 八月二十三日 ご命日の集い 西祐寺
- 九月 二十日 ご命日の集い 願生寺



※3号の写真はすべて学習座のものです